

問1 明治初期、西洋の生活様式や文化が取り入れられ、急速に社会が近代化した風潮を何という？

1. 文明開化 2. 国風文化 3. 化政文化 4. 元禄文化

問2 1867年に徳川慶喜が政権を朝廷に返したことを何という？

1. 王政復古 2. 版籍奉還 3. 大政奉還 4. 廃藩置県

問3 明治政府が日本で最初の近代的な学校制度を発布した年はいつ？

1. 1874 2. 1873 3. 1871 4. 1872

問4 地租改正において、地租（税金）を決定する際の基準とされた土地の価格を何という？

1. 納税額 2. 地価 3. 収穫量 4. 地租率

問5 明治天皇が神々に誓う形で示し、政治の基本方針とした文書を何という？

1. 五箇条の御誓文 2. 政体書 3. 大日本帝国憲法 4. 五榜の掲示

問6 1867年、江戸幕府第15代将軍として政権を朝廷に返上した人物は誰？

1. 徳川家慶 2. 徳川家茂 3. 徳川家定 4. 徳川慶喜

問7 1871年からの身分制度の廃止により、かつての武士・農民・職人・商人の区別がなくなったことを何という？

1. 地租改正 2. 四民平等 3. 廃藩置県 4. 学制発布

問8 明治政府が廃藩置県を実施した年は何年？

1. 1868年 2. 1873年 3. 1871年 4. 1869年

問9 明治政府が、欧米列強の植民地化を防ぎ、独立を維持するために掲げた国家政策を何という？

1. 富国強兵 2. 廃藩置県 3. 殖産興業 4. 文明開化

問10 明治政府が国力を高め、軍勢力を強化して列強に並ぼうとした国家方針を何という？

1. 殖産興業 2. 富国強兵 3. 文明開化 4. 和魂洋才

問11 欧米諸国に並ぶ国力を養うために明治政府が掲げた、国力を高める政策の合言葉を何という？

1. 殖産興業 2. 廃藩置県 3. 文明開化 4. 富国強兵

問12 19世紀後半、欧米列強がアジアに進出する中で、日本が維持しようとした国家の状態を何という？

1. 自治 2. 連邦 3. 独立 4. 統合

問13 明治政府において、初代の内務大臣にあたる官職に就き、殖産興業を推進した役職を何という？

1. 内務卿 2. 太政大臣 3. 参議 4. 右大臣

問14 明治政府が全国の藩主から土地と人民を天皇に返還させた政策を断行した年は何年？

1. 1867年 2. 1868年 3. 1871年 4. 1869年

問15 明治初期、全権大使として欧米へ渡り、帰国後は国内の近代化を優先する政策を進めた人物は誰？

1. 木戸孝允 2. 西郷隆盛 3. 岩倉具視 4. 伊藤博文

問16 明治新政府が旧幕府軍との戦いに勝利し、全国を統一した一連の内戦を何という？

1. 西南戦争 2. 戊辰戦争 3. 日清戦争 4. 日露戦争

答え合わせ・解説

問1	答え 1 文明開化	服装、髪型、食生活が変化し、レンガ造りの建物や新聞、郵便制度が登場しました。特に「学制」の施行や「太陽暦」の採用により、国民の生活や意識も近代的に変わっていきました。
問2	答え 3 大政奉還	1867年、江戸幕府第15代将軍・徳川慶喜は、朝廷に対して政権を返上しました。これにより260年以上続いた江戸幕府は終わりを迎えました。慶喜は政権を返上することで、天皇を中心とした新しい政府の中でも自身の政治的地位を維持しようとする狙いもありました。
問3	答え 4 1872	1872年、政府は全国的な学校制度である「学制」を發布しました。この制度により、身分に関わらずすべての子供が教育を受ける機会を得ることを目指しました。
問4	答え 2 地価	明治6年（1873年）の地租改正により、土地の生産性を評価して地価が決定されました。この地価を基に、土地の所有者が地価の3%を現金で納税する仕組みが確立されました。これにより、豊作・凶作に関わらず政府は一定の収入を確保できるようになりました。
問5	答え 1 五箇条の御誓文	1868年に発表された「五箇条の御誓文」は、新しい国家建設の理念を明文化したものです。「広く会議を興し、万機公論に決すべし」という一節は、広く意見を募り、合議によって政治を決定するという民主的な方向性を示した画期的な内容でした。
問6	答え 4 徳川慶喜	徳川慶喜は、政権を朝廷に返上することで徳川家を中心とした新たな政治体制を築こうと画策し、1867年に大政奉還を断行しました。これにより約260年続いた江戸幕府は終焉を迎えました。
問7	答え 2 四民平等	「四民平等」は、かつて区別されていた士農工商の身分をなくし、すべての国民を法的に平等に扱う考え方です。これに伴い、平民の姓を持つことや、居住や職業の自由が認められるようになりました。
問8	答え 3 1871年	明治政府は1871年に廃藩置県を断行しました。藩を完全に廃止し、中央政府が任命した府知事や県令が地域を治める体制へ移行しました。これにより、地方の力は中央へと集中されることになりました。
問9	答え 1 富国強兵	富国強兵は、近代的な産業を育てて税収を増やし、強力な軍隊を持つという政策です。この方針に基づき、地租改正による財源確保や、官営模範工場の設立、徴兵制の実施などが強力に推進されました。
問10	答え 2 富国強兵	経済発展を目指す「殖産興業」と、強力な軍隊を育成する「富国強兵」をセットで推進しました。これにより、鉄道の整備、官営工場の設立、徴兵制の施行など、多角的な近代化策が実行されました。
問11	答え 4 富国強兵	明治政府は「富国強兵」を国家の基本政策に掲げました。経済面では殖産興業を進めて資本主義の土台を作り、軍事面では徴兵令などを通じて近代的な軍隊を創設しました。
問12	答え 3 独立	明治政府にとって最大の目標は、国家の独立を守り、欧米諸国と対等な立場に立つことでした。そのために、政治、経済、軍事のすべてにおいて近代化を急ぎ、西洋の新しい知識や技術を積極的に取り入れました。
問13	答え 1 内務卿	1873年に設置された内務省の長官を内務卿と呼びます。初代の内務卿には大久保利通が就任し、殖産興業政策を強力に推進しました。このポストは後の内閣制度における内務大臣へと引き継がれました。
問14	答え 4 1869年	1869年、薩摩・長州・土佐・肥後の四藩主らが主導し、版籍奉還が行われました。これにより、藩主は藩知事に任命されましたが、領地と領民の支配権を天皇（政府）に返上することとなりました。
問15	答え 3 岩倉具視	1871年に岩倉具視を全權大使とする使節団が派遣されました。帰国後の岩倉は、海外渡航で痛感した日本の遅れを挽回するため、性急な対外拡大を控え、国内の近代化と富国強兵を優先する方針を確立しました。
問16	答え 2 戊辰戦争	1868年の鳥羽・伏見の戦いから始まり、東北地方、最後は北海道の箱館まで続いた内戦を指します。近代的な軍制を整えた新政府軍が、旧幕府の残存勢力を次々と制圧しました。この戦いを通じて、日本は武家による封建制から、天皇を頂点とする近代的な統一国家へと大きく舵を切ることになりました。